

東播支部は、委員の調査とコーディネーターの拠点訪問により、各拠点の現状と今後の活動に対するリサーチを行いました。ほとんどの拠点が、今後、「まちの保健室」が再開となれば、ともに活動をしたいと希望されています。地域でもボランティア活動が難しい状況であることへの理解があり、できる範囲での再開を待っていただいています。

兵庫県立大学地域ケア開発研究所では、5月に独自の電話相談を開設しましたが、待っても待っても電話はかかってこなかったため、これまでの「まちの保健室」参加者で、動脈硬化度測定の予約名簿に連絡先を残して下さっていた方に、こちらから電話をかける方法を試みました。名簿は平成21年からありました。「まちの保健室」担当者の入れ替わりもありましたが、皆、活力のあるお声で心よくお話をしてくださいました。緊急事態宣言発令時で在宅されている方が多く、40名を超える方にご様子を聞くことができました。しばらく参加されていない人は、「懐かしいわ、あの頃は競い合うように参加していたのを思い出しました」とか、「友達と誘い合っているのが楽しくて」と話されていました。また、9月から12月の4か月間、1時間に1名（ご夫婦は2名）予約制で個別に健康チェックと健康相談を実施しました（合計16名）。直接お話を伺うことで、新たな健康課題があることや、「まちの保健室」が一部の地域住民の不可欠な活動となっていることを感じました。現在、再開に向けて検討を重ねていますが、実施形態などを工夫し、地域における健康づくりの貴重な活動として活かされる日が来ることを期待しています。



動脈硬化度測定の様子  
(地域ケア開発研究所)



フィットケアの様子  
(加古川体育館)



子育て相談の様子  
(加古川駅南)

### 各拠点次年度に向けて

#### ふれあいプラザ明石西

予約制を導入し、一人当たりの時間制限を設けた上で健康相談を行えるよう検討しています。

#### 加古川市立総合体育館

来年度については、「やらない」という前提ではなく「やる」という前提で進めていこうと検討しています。ボランティアの中にはコロナ病棟に勤務する看護師もいるため調整が困難な場合も考えられますが、体育館の方々と協力し感染防止対策や方法などを模索しながら、新しい形での活動を検討していきたいです。

#### 淡路つな

今年度、「まちの保健室あるんか？」と、楽しみにされている声もありましたが、活動の中止について社会福祉協議会を通してご連絡しました。今後、どのような活動ができるかわかりませんが、可能な範囲で活動をしていきたいです。